

【評価シート】令和2年度執行分 地方創生推進交付金活用事業実績報告

NO	事業名 (事業期間)	事業 開始 年度	申請 区分	事業計画	A.計画額 (交付額)	B.実績額 (交付額)	C.差額 (交付額)	重要業績評価指標 (KPI)	当初値	単位	1年目	2年目	3年目	最終目標値	R2年度の事業結果及び今後の方針	担当課
											上段:目標 下段:実績	上段:目標 下段:実績	上段:目標 下段:実績			
1	小山市のブランドの「はとむぎ」の健康効能を活かした健康長寿のまちづくり事業 (平成30～令和2年度)	H30	単独	<p>はとむぎの効能実証研究の成果を踏まえ、機能性表示食品としての登録により健康に良いという付加価値をつけてはとむぎの魅力を外内へのPRを継続する。</p> <p>また、新メニューの開発に取り組むとともに、専門的な販売施設等を整備することにより、さらに効果的なPRを行い、消費拡大、ブランド力の強化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料理教室の開催 ・フェア・講演会等の普及啓発事業 ・はとむぎメニュー開発事業 ・はとむぎ販売促進支援 ・機能性表示食品としての登録 	18,350 (9,175)	16,502 (8,251)	1,848 (924)	はとむぎ作付面積の拡大	80	ha	80	85	90	90	<p>【事業結果】</p> <p>①「小山のはとむぎ」を周知啓発するホームページ及びはとむぎ商品が買える・はとむぎ料理が食べられる場所を載せた「はとむぎマップ」を作成した。</p> <p>②はとむぎを使った新商品として「はとむぎチョコ」や「はとむぎラテ」を開発し、「はとむぎラテ」については試作、試飲と試験販売(2600個)を実施した。また、焼酎をはとむぎ茶で割る「はとむぎ割」の試飲会を2日間開催したところ、飲食店等の関係者45名が参加した。</p> <p>③はとむぎ料理動画を作成し、配信を開始した。</p> <p>④機能性表示食品取得に向けた検証研究としてスクリーニング・最終試験を実施した。</p> <p>【今後の方針】</p> <p>機能性表示食品については令和3年度へ繰り越し、最終報告書の作成、登録申請により機能性表示食品の取得を目指す。また、開発した「はとむぎラテ」を学校給食に導入し子どもたちへの普及と共に将来的な市販による販売拡大を図る。</p>	健康増進課 農政課
								はとむぎ新製品の総売上額	0	千円	500	1,500	4,500	4,500		
								はとむぎを扱う店舗数	1	件	4	10	30	30		
								新はとむぎ料理提供事業所数	0	件	4	10	20	20		
2	地域の活力創出・経済活性化に資する公共交通利用促進プロジェクト (平成30～令和2年度)	H30	単独	<p>①渡良瀬遊水地観光地化推進5カ年計画(エコ・アグリツーリズム)推進のため新路線試験運行</p> <p>②おーバスのICT化事業:新路線含むバス10台の運行状況及び乗降客数調査、データ解析</p> <p>③モビリティマネジメント事業の実施:アンケート実施による検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新路線(間々田-野木-渡良瀬遊水地路線/栃木-渡良瀬遊水地路線)実験運行及びエコ・アグリツアー便運行 ・バス運行状況調査及びデータ解析 ・乗降状況調査及びデータ解析 ・アンケート調査結果を踏まえた路線の見直し改善 ・車両リース(1台) 	9,694 (4,847)	7,294 (3,647)	2,400 (1,200)	コミュニティバス(間々田-野木-渡良瀬遊水地路線)利用者数	0	人	0	18,000	20,000	20,000	<p>【事業結果】</p> <p>①広域公営バス「渡良瀬ライン」の継続実証運行を実施した。</p> <p>②バスロケーションシステムについては、市民に対しバスの運行位置の情報提供をするとともに、乗降客数を調査分析し、新市民病院線、大谷中央線、土塔平成通り線、羽川線のダイヤ改正に反映させ、利便性を向上させた。</p> <p>③モビリティ・マネジメントについては、学校MMや路線新設を行った結果、コロナ禍にもかかわらず路線バスの利用者は前年比約8千人増の737,032人、サポーター・バス停オーナーは基準年比14万5千円増の43万円となった。観光客向けMMについては渡良瀬遊水地の「ヨシ焼き」来訪を準備したが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。</p> <p>【今後の方針】</p> <p>地方創生推進交付金が終了したため、令和3年度からは「コミュニティバス運営事業」へ統合し、下記の通り運行を継続する。</p> <p>①「渡良瀬ライン」については、令和2年度運行に当たった課題を解決するとともにPRによる利用者増を目指す。</p> <p>②バスロケーションシステムについては、運行状況及び乗降状況のデータを蓄積し、データに基づいた路線ダイヤ改正を実施し、更なる利便性向上・利用者増を目指す。</p> <p>③モビリティ・マネジメントについては、学校MM、エコ通勤MM、更なるオーナーサポーター獲得等への取り組みを実施する。</p>	都市計画課
								コミュニティバスを利用した渡良瀬遊水地への来場者数	0	人	0	500	600	600		
								間々田-野木-渡良瀬遊水地路線運行収入	0	千円	0	1,800	2,000	2,000		
								バス停オーナー・サポーター等協賛金の額	0	千円	20	60	460	460		

NO	事業名 (事業期間)	事業 開始 年度	申請 区分	事業計画	A.計画額 (交付額)	B.実績額 (交付額)	C.差額 (交付額)	重要業績評価指標 (KPI)	当初値	単位	1年目	2年目	3年目	最終目標値	R2年度の事業結果及び今後の方針	担当課		
											上段:目標 下段:実績	上段:目標 下段:実績	上段:目標 下段:実績					
3	地域の未来を創る結城紬産業振興プロジェクト (令和1～令和3年度)	R1	広域 連携	①原料生産における新たな担い手の養成 ②小山産繭による新商品のデザイン検討と製作着手 ③新たな流通形態の試行による販路開拓 ④事業継続・事業承継に向けた積極的な取組の促進 ⑤結城紬の伝統技術・産地の魅力発信や観光誘客のためのコンテンツ整備 ・製織等の後継者への実務研修、産地への定着促進 ・体験会・講習会、スキルアップ研修を開催 ・新品種繭の研究開発等 ・新たな流通形態による求評宣伝会への助成 ・モデル的な取組を実証する生産者を支援 ・結城紬の原料生産・各製作工程や産地の歴史等の展示パネルを設置	15,080 (7,540)	10,612 (5,306)	4,468 (2,234)	展示販売会における販売額	27,000	千円	30,000	34,000	42,000	42,000	【事業結果】 ①新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員を少なくして実施したため、KPIを下回った(栃木県30、小山市35、計65名増)。 ②小山産繭を使い、新商品を制作した。 ③展示販売会については、大阪・博多にて実施した。新型コロナウイルスの影響もあり、開催が危ぶまれたが、感染症対策を行い開催した。 ④栃木県にて、モデル的な取組を実施する生産者を支援した。 ⑤レンタサイクル用の電動自転車を導入 【今後の方針】 ①栃木県では紬織物技術伝習生の育成を、小山市では原材料部門の後継者育成を引き続き行う。 ②小山産繭を使い、新商品として栃木県6商品、小山市1商品を目標に実施する。 ③新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、より効果的な実施方法等を検討し行う。 ④引き続き、生産者の支援を行う。 ⑤電動自転車を使用した観光ルートパンフレット等を作成する。	工業振興課		
								本事業を通じた新商品開発数	0	品目	0	5	12				12	
								本場結城紬の検査反数	1,153	反	960	1,164	1,176					1,176
								本事業を通じた結城紬生産を担う人材の育成数	37	人	102	187	302					
			109		174													
4	空き家等を活用した二地域居住促進事業 (令和1～令和3年度)	R1	単独	令和元年度策定した「ニーズに沿った空き家の改修計画」に沿って ・ニーズに沿った空き家の確保 本事業内容に沿った物件を確保し、必要に応じた修繕を実施 ・二地域居住促進PRの実施、サイトの開設 PR用webサイトの構築・運営、デジタルサイネージを小山駅・間々田駅に設置し小山市の魅力を発信。 ・週末体験モデルプランの実施 二地域居住を促進する体験型イベントの計画・実施 ・地域づくり参画の仕組みづくり 二地域居住促進を持続的なものとするため、誘客イベントの企画、運営等を行う収益性のあるビジネスモデルの確立や次年度実施予定の地域住民による対話型ワークショップ等の準備作業	50,000 (25,000)	39,380 (19,690)	10,620 (5,310)	空き家が解消された件数	0	件	5	15	30	30	【事業結果】 ①物件の確保 2件の空き家を確保、改修を実施。 1件目:小山市大字下国府塚 豪農屋敷 2件目:小山市城山町 コワーキングスペースSEKEN ②小山駅及び間々田駅改札前にデジタルサイネージを設置。二地域居住PRWebサイトを開設(令和3年3月31日)。 ③コロナ禍の影響により週末体験モデルプランに見送りや延伸はあったものの農業体験・伝統郷芸体験を東京圏の家族や大学生等に計4回実施。 ④コロナ禍の影響により地域間の移動が大幅に制限されたことで、二地域拠点世帯数は0件であった。 【今後の方針】 ・引き続き確保した2件の物件については、小山市の二地域居住拠点施設として活用し、施設利用促進のための情報発信を行っていく。 ・デジタルサイネージやWebサイトといったPR媒体を有効に活用し、小山市の企業・個人・コミュニティへの取材を行うことで小山の魅力を発信をし、二地域居の促進を図る ・コロナ禍での情勢を勘案の上、可能な範囲での週末体験モデルプランの実施 週末体験モデルプラン:農業体験、木工手芸体験等の小山の魅力を体験できるイベントの実施 ・地域づくり参画の仕組みを作り上げ、自走化や事業の継続性がもてるような仕組みを構築していく。	シティプロモーション課		
								人口社会動態転入超過者数	490	人	490	510	530				530	
								サイトの閲覧数	0	件	0	5,000	10,000					10,000
								空家を活用した二拠点居住世帯数	0	件	-29	426	5					
			1		0													

NO	事業名 (事業期間)	事業 開始 年度	申請 区分	事業計画	A.計画額 (交付額)	B.実績額 (交付額)	C.差額 (交付額)	重要業績評価指標 (KPI)	当初値	単位	1年目	2年目	3年目	最終目標値	R2年度の事業結果及び今後の方針	担当課	
											上段:目標 下段:実績	上段:目標 下段:実績	上段:目標 下段:実績				
5	小山市渡良瀬遊水地エ コ・アグリツーリズム推進 拠点整備事業 (効果促進事業) (令和1～令和3年度)	R1	単独	・治水、環境、農業、観光等、遊水地関係の各団 体や地域関係者間の調整・合意形成を図り、交 流人口の拡大と湿地環境の保全の両立を図ると ともに、地域活性化につなげる。 ・農産品や特産品の品質・付加価値の向上に努 めるとともに、新たな販路として交流館を最大限 活用し、地域ブランド力の向上や観光客等の満 足度の向上を図る。 ・周辺自治体と連携した交通手段を確保するこ とで、さらなる観光誘客の促進・交流人口の拡大を 図る。また、渡良瀬遊水地の保全・再生活動に 取り組むことにより、貴重な自然環境の保全を図 る。 ・自然観察・体験プログラムや野菜等の収穫体 験等エコツーリズムとアグリツーリズムを通して、 交流人口の拡大に取り組み、持続的な地域活性 化の仕組みを構築する。	(R1) 5,440 (2,720)	(R1) 3,390 (1,695)	(R1) 2,050 (1,025)	施設売上げ額	0	千円	0	1,200	2,500	(4年目:4,000) 6,000	【事業結果】 ①R2.5.30に開館した「渡良瀬遊水地コウノトリ交流 館」を活用し、渡良瀬遊水地の最新情報を発信し た。 ②国内野生コウノトリの絶滅後、東日本で初となる野 外繁殖によるヒナの誕生という話題も重なり、当初計 画を上回る延べ7,553人の方に来館いただいた。 ③コロナ禍ではあったが、カヤック体験やヨシ刈り体 験など計6回の小規模イベントを開催し、あわせて 124人の参加をいただいた。 ④渡良瀬遊水地に自生するヨシを活用したお土産品 として、ヨシ染めハンカチ等を交流館にて試験的に販 売した(売上額:169千円)が、地元の野菜等を販売 する軽トラ市などの集客イベントがコロナ禍により開 催できなかったことや、計画していたカフェが稼働で きなかったため目標の売上を確保できなかった。 【今後の方針】 コウノトリが定着する渡良瀬遊水地の貴重な自然環 境について、施設を最大限に活用しながら、PR及び エコツーリズムの実施により、渡良瀬遊水地を生か した周辺地域の活性化を図る。また、お土産品を充 実させ、来館者のサービス向上を図る。	自然共生課	
								施設利用者	0	人	0	1,200	2,500				(4年目:4,000) 6,000
								体験型イベント参加者	0	人	0	300	600				(4年目:900) 1,200
6	小山市の歴史・文化・自 然・インフラを活用したま ちなかの魅力磨き上げ 推進計画 (令和2～令和4年度)	R2	単独	新幹線が停車する小山駅の徒歩圏内にあるま ちなかの地域資源の歴史的・文化的背景、自然 豊かさや身近さを活かした楽しみ方の発信する とともに、歴史・文化、自然、日常の体験を通し て、人々の本市への興味・関心が高まり、これら を目的とした多くの人が、市外からも訪れ、回遊 できるようになることで、交流と賑わいを創出し、ま ちなかの訪問人数・滞在時間を増加させ、まちな か経済の活性化を目指す。 ①歴史体験プログラム企画に係る事前調査 ②城山公園魅力発信の企画立案・運用 ③事業実施計画・進行管理の作成	3,500 (1,750)	2,000 (1,000)	1,500 (750)	祇園城通り歩行者数	2,500	人/日	2,560	2,640	2,750	2,750	【事業結果】 ①城山公園及び周辺地域が持つ歴史・文化、風土、 日常を様々なアプローチから体験プログラムとして 開発するため、地域資源のリサーチや市民ニーズの 把握、専門家との意見交換・現地踏査などを行っ た。 ②対象区域に特化した新たなWebサイト及びSNSを 立ち上げ、城山公園及び周辺地域の歴史・文化、城 山公園の変化の記録(工事の進捗など)や再整備の 背景などを発信した。 ③歴史体験プログラムの令和3年度・令和4年度の2 か年における事業実施計画及び業務スケジュール を作成した。 【今後の方針】 ・歴史体験プログラムの作成を行うとともに、プロ モーションを実施する。 ・街路空間を活用したパークレットの設置、低未利用 地となっている駐車場や空き地を活用したキッチン カーの誘引やコンテナマルシェの開催、中心市街地 に隣接する思川の周辺を活用した水辺アクティビティ や屋外シアター、キャンプ等の野外活動の各社会実 験を実施する。	まちづくり推進 課	
								小山駅西口地域の新規出店 数	0	件/年	2	4	6				
								小山駅西口地域の居住人口	4,000	人	4,050	4,100	4,150				
								小山駅西口地域の滞在人口	0	人	100	200	300				
7	移住定住女子力小山の 魅力発信計画 (令和2～令和4年度)	R2	単独	「おやまに新しいひとの流れをつくる」全国の 若者、女性から選ばれるまちの実現に向けて、 情報発信を展開している女性を中心とした「魅力 発信チーム」を発足させ、女性ならではの発想や 視点を活用した、市内事業者等と連携、小山の 魅力を国内外に発信する各種事業を推進するこ とにより、小山市の魅力向上と、関係人口の創 出・拡大による地域の活性化を図る。 ・会議運営 ・勉強会・講演会の開催 ・ロゴデザイン作成事業 ・有料広告によるチーム・小山市プロモーション 情報発信	2,000 (1,000)	1,872 (936)	128 (64)	魅力発信チーム各メンバー に関わる販売金額の合計	0	万円	0	400	1,000	1,000	【事業結果】 ①チームの存在をPRするため、チームのコンセプト を表したロゴデザインを制作した。作成したロゴは、 チームのSNSのアイコンに利用する他、市民フォー ラム運営に係る場面等で、チームとしての名札のデザ インに使用した。 ②勉強会・講演会を3回開催し、チームの結束とメン バーの「稼ぐ力」の醸成を図った。講演会では、先進 事例である南魚沼市の女性シティブロモーション チームの代表者や、元栃木市の地域おこし協力隊で 移住コーディネーターを務めていた女性を招き、先進 事例の運営手法や活動内容を学んだ。 ③Instagram(フォロワー91人)、Facebook(フォロ ワー134人)で小山市の魅力について情報発信を 行った。 【今後の方針】 おやまづくり(地域おこしイベントの開催等)、起業家 (小山ブランド商品等の販売を行うECサイトの企画・ 立ち上げ)、SNS(Facebook、Instagramを活用した情 報発信)、マスメディア(テレビ、ラジオ、コミュニ ティFM、雑誌等)を利用した情報発信)の4チームに分か れ、昨年度に引き続き、女性ならではの視点で小山 市の魅力を発信していく。	シティブロモ ーション課	
								SNSのフォロワー数	0	人	100	400	1,000				
								魅力発信チームと連携した 企業・団体の取組みの数	0	件	0	4	10				
								おやまファンクラブ「小山評 定ふるさと応援し隊」隊員増 加数	-	人	500	1,000	2,000				

※A: 交付金申請時の決定額 B: 事業終了後の精算額 (単位: 千円)